

溶接学会「溶接学術振興賞」受賞 受賞者 顧問（非常勤） 安西 敏雄

2022年度の溶接学会表彰において、学術研究および教育活動を通じて、溶接・接合分野の学術・技術の振興，進歩・発展に果たした功績が評価され，顧問（非常勤）の安西敏雄氏が「溶接学術振興賞」を受賞した。

一般社団法人 溶接学会の溶接学術振興賞は，溶接・接合に関し，学術研究および教育活動により学術・技術の振興，進歩・発展に著しく貢献された方に授与される名誉ある賞である。

安西氏は、1976年に当社に入社以来，一貫して化学・石油化学・原子力発電などのプラント設備および半導体製造設備の建設ならびに各種プラント設備のメンテナンスにかかわる溶接技術開発に従事している。そして，溶接部の品質向上とコスト削減のための溶接自動化の推進，溶接部の損傷防止に資する施工技術の開発，溶接補修技術の確立など幅広い溶接関連分野の業務に関与し，長い間その推進リーダーとして貢献している。主な業績を以下に示す。

- (1) 原子力発電設備のステンレス鋼（SUS304）製タンクの溶接の自動化を推進し，自動マグ溶接およびエレクトロガスアーク溶接技術を開発・実用化した。ステンレス鋼に対するエレクトロガスアーク溶接の適用は，業界で初めての試みであったが，溶接品質の向上に貢献した。
- (2) 高温高压の蒸気配管（Cr-Mo鋼）の現場溶接に，ホットワイヤ方式の自動ティグ溶接を実用化し，溶接品質の向上に成功した。
- (3) 半導体製造設備に係る高洗浄ステンレス鋼の溶込み特性におよぼす微量元素の影響に関する研究を行い，内圧コントロールによる自動ティグ溶接法を開発・実用化し，高洗浄配管の溶接施工に貢献した。
- (4) 石油化学プラントのエチレン分解炉反応管（HK，HPなど）の経年劣化した時効材の溶接技術を確立し，反応管の部分取替え工事の品質向上と工事期間の短縮に寄与した。
- (5) オーステナイト系ステンレス鋼溶接部の淡水環境における微生物腐食について，事例解析とラボによる再現実験などにより，その再現実験方法の提案と防止技術を開発した。それにより微生物腐食による被害の低減に貢献している。

溶接学会においては，代議員，九州支部商議員・支部幹事を務めている。また，日本溶接協会においては，溶接管理技術者研修会講師，溶接管理技術者教育委員会委員，溶接管理技術者評価員および評価委員会委員，J-ANB試験委員会委員，溶接検査認定委員会委員などを務め，同協会の活動に貢献している。

地域における活動では，福岡県溶接協会理事を長年にわたって務めるとともに，北九州国際技術協力協会（KITA）では，海外研修生の溶接技術講座の講師，北九州メンテナンス技術研究部会における研究部会の講師および溶接セミナーの講師を務めている。

後進の教育・指導に関しては、溶接技術競技会では福岡県溶接協会が主催する溶接技術競技会および高等学校溶接技術競技会においては、審査委員長などを歴任している。また、地域の中小企業に対しても行政機関を通じて、溶接技術者・技能者の教育・指導に携わっている。

略歴

1976年 3月	九州工業大学 工学部 金属加工学科 卒業
1976年 4月	株式会社高田工業所 入社、技術部 配属
2001年 4月	技術本部 技術開発部 次長
2002年 5月	九州工業大学 大学院 生命体工学研究科 客員教授
2006年 3月	九州工業大学 大学院 生命体工学研究科 博士（工学）の学位取得
2009年 5月	株式会社高田工業所 保全技術部 部長（兼務）
2012年 6月	技術本部 副本部長，理事
2014年12月	開成工業株式会社 技術顧問（非常勤）
2018年 3月	九州工業大学 大学院 生命体工学研究科 客員教授 退任
2021年 7月	株式会社高田工業所 顧問（非常勤）

※経歴および略歴は、溶接学会誌 Vol.91, No.5, pp.19(2022) より

(溶接学会 溶接学術振興賞 歴代受賞者のHP,<https://jweld.jp/awards/academic-promotion-award/>)



(当社の溶接学会のフェロー認定および表彰の受賞歴)

2021年度	溶接技術奨励賞，中野正大	／	2016年度	フェロー認定，安西敏雄
2016年度	溶接技術奨励賞，中野光一	／	2012年度	溶接技術普及賞，森川順三
2010年度	溶接技術普及賞，浜田宏昭	／	1995年度	溶接技術奨励賞，安西敏雄